

地域社会の変容と地域放送

——松山市のマイク放送をめぐって——

市 川 虎 彦
中 村 功

目次

序章 はじめに

第I章 騒音としての行政広報

1. 近隣騒音と文化騒音
2. 防災無線をめぐる問題

第II章 松山市の広報放送

1. 松山市の概要
2. 松山市のマイク放送

第III章 マイク放送をめぐる地域紛争

1. マイク放送問題～潮見ヶ丘地区の例
2. 潮見校区の概要
3. 潮見ヶ丘地区のマイク放送

第IV章 コミュニケーション・メディアを巡る問題

——住民アンケート調査から——

1. 調査の目的および方法
2. コミュニティーの特性
3. マイク放送の利用実態・評価
4. マイク放送に対する不満の要因
5. 今後の対策

第V章 個別受信機による地域放送～川内町の事例

1. もう一つの防災無線
2. 川内町の概要
3. 川内町の行政防災無線
4. 川内町と松山市の地域放送

第VI章 地域放送とコミュニティ

おわりに
調査表および単純集計
資料・自由解答

序章 はじめに

近年、都市化や地域住民の市民的意識のたかまりを背景に、街にあふれかえる音の洪水を問題視する人々があらわれてきた。工場騒音や飛行機の騒音とはことなるさまざまな音源が街には存在し、ある種の人々にとっては苦痛の源となっている。本報告書は、そうした騒音問題の中でも、地域社会と密接な関係をもつ行政関係の地域放送をとりあげた。具体的には、愛媛県松山市にあって現在も運営されている「マイク放送」とよばれる地域放送を調査事例としてえらんだ。このマイク放送をとりあげたのは、この問題が次章で説明する文化騒音・近隣騒音の一つの典型をなしていることと、マイク放送をめぐる地域的な紛争が生じている例が存在していることからである。また、地域社会の変容が、地域のコミュニケーション・メディアと地域住民との間に不適合を生じさせている興味ぶかい事例だとかんがえたこともある。

以上のような問題意識のもとに、以下の順序でこの問題を論じていくことにする。まず第I章では、最近あらたに提起された問題である文化騒音・近隣騒音の特徴や問題点を紹介する。第II章では、松山市のマイク放送のシステムについて論じる。第III章では、具体的な紛争例として、松山市内の潮見ヶ丘地区の事例を検討することにする。第IV章では、紛争地区をふくむ地域の住民に対しておこなったアンケート調査をもとにマイク放送の利用実態や地域住民の評価、不満の要因などについてあきらかにしていく。第V章では、ことなった形態の地域放送として対比の意味で、川内町の行政防災無線について論じていくことにする。最後に第VI章で、今後の地域放送のあり方に対する提言をふくめて地域放送と地域社会の関係についてのべてみることにする。

第Ⅰ章 騒音としての行政広報

1. 近隣騒音と文化騒音

以前より、日本人は音に鈍感である、ということが評論家・文化人から問題提起されてきた¹⁾とくに指摘されてきたのは、駅のホームや列車の中での放送である。よくヨーロッパの事例をひきあいに、日本の放送がたえられないような大音量であり、かつ不必要で無意味なことがらをながしていると批判されてきた。

そのほか、喫茶店やスキー場、娯楽施設などでたえ間なくながされる音楽。商店街やデパートの放送や音楽。日本では、街をあるけばすぐさま音の洪水にさらされる。

近年、これらの音を「文化騒音」という枠組みでとらえようという動きがある。その中心人物が中島義道である。彼は、文化騒音として以下の五つのものをあげている²⁾

- ①駅構内・エスカレーター・バス・銀行・海水浴場・プールなどの煩瑣な注意放送
- ②CDショップ・カメラ屋・電気屋・靴屋などの店外にむけての宣伝放送
- ③住宅地に侵入してくる竿竹屋・網戸屋・焼き芋屋などの拡声器音
- ④防災無線
- ⑤そのほか、わが国の津々浦々に流れる同種の「音」

文化騒音は、主として拡声器をつかった放送や音楽、電子音が原因となって発生している。これらの音は、工場や飛行機がまきちらす騒音とことなった特徴を有している。文化騒音の特徴を、前の中島はやや戯画化しつつ、8点にわ

1) 中島義道・福田喜一郎・加賀野井秀一編『静かさとはなにか』第三書館、1996、P.155～199
には、文化騒音に関する文献の一覧が付されている。

2) 中島義道「騒音倫理学の可能性」、同上書所収、P.79.

たつてのべている³⁾

- ①本人にとっては苦痛であるのに、たとえ告白したとしても「ささいなこと」として片づけられてしまう。
- ②したがって、それを訴えること自体が「わがまま」だとみなされ嫌がられる。
- ③とすると「自分で解決する」ほかないわけだが、さしあたりいかなる解決も思い浮かばない。
- ④しかも、これは「考え方」によって変わるものではなく、忘れることもできず、日々いや刻々苦痛を覚えねばならない。
- ⑤しかも、マジョリティには通じないのだから、実社会で生きてゆくためには、それが「気にならないふう」をつねに演じていなければならない。
- ⑥だんだんそうしているうちに、恐ろしいことに「自分がいけないのではないか」と思い込んでしまう。
- ⑦このことから、自己嫌悪がはなはだしくなる。
- ⑧だが、——あきらめること以外——ほんとうに解決はない。

この中で、もっとも重要なことは、文化騒音を「騒音」と感じない人々が、日本では多数派であるということである。ここに、この文化騒音をめぐる問題のむずかしさ、および工場騒音などとのちがいが集約されている。

この近年議論に付されるようになった文化騒音と隣接する領域に「近隣騒音」という問題がある。近隣騒音には、近所からきこえてくる電化製品の音、楽器の音、動物のなき声、そして床をあるく音や風鈴の音までふくまれるという⁴⁾

近隣騒音の特徴を久田満・山本和郎にしたがって、以下に列記してみることにする⁵⁾

- ①音の種類がひじょうに多岐にわたっている。

3) 中島義道『うるさい日本の私』洋泉社、1996、P. 4～5.

4) 久田満・山本和郎「近隣騒音の問題」、山本和郎編『生活環境とストレス』垣内出版、1985、P.158.

5) 同上、P.159.

- ②発生する場所や時間が不特定な場合がおおく、おもいがけない時間におもいがけないところから突如としておそってくる。
- ③ちいさな音ほど気にかかるといわれるように、騒音レベルがひくくても問題となりうる。
- ④上記の特徴より、第三者には理解されにくい。
- ⑤被害範囲がせまい。
- ⑥上記の特徴より、被害者は、加害者から反撃され、行政からは無視され孤独な闘いをしいられることになる。
- ⑦音源となっている隣人との人間関係というような、心理社会的要因の影響をよりつよくうける。

文化騒音と近隣騒音の特徴においては、その被害者の被害感が第三者や加害者に理解されがたいという点と、被害者の問題解決にむけた行動や努力が孤立しがちであるという点を共有している。

1985年の時点で、近隣騒音の問題が深刻化してきていると指摘した久田・山本は、その背景として以下の原因をあげている⁶⁾

- ①家庭生活の中に相当おおきな音をだす器具が普及してきたこと。
- ②都市の過密化によって居住条件が悪化したこと。
- ③地域社会での近隣関係が疎遠化し、人々の交流が希薄化してしまったこと。
- ④プライバシーを大切にする市民意識が向上したこと。

ここで指摘されているように、近隣騒音の問題というのは、地域社会のありようと関連していることなのである。

さて、これまで紹介してきた文化騒音と近隣騒音との接点にある音源が、文化騒音の例の④であげられている防災無線である。次に、この防災無線に関する議論をみてみることにしよう。

6) 同上, P.161~162.

2. 防災無線をめぐる問題

現在、日本各地に防災無線という地域放送の設備をもつ自治体がある。防災無線の本来の目的は、地震・津波・風水害・火事といった、文字どおり災害関係の緊急連絡を地域住民にむけておこなうことにある。しかし、こうした災害関係の放送以外に、定時放送をもうけて行政関係の広報用に防災無線をつかったり、拡声器の試験をかねて毎日定時に音楽やチャイムをながす自治体もおおい。

前節でみたように、こうした防災無線が文化騒音の一種としてとりあげられているのである。青梅市にすむC=J=ディーガンは、この地の防災無線を告発している¹⁾。ディーガンによれば、東京都青梅市の防災無線は1958年、広報放送システムとしてはじまり、朝夕の行政広報がながされていた。市民からの苦情がふえてきたので、1986年に市が調査をおこなった。その結果、調査対象者の8割ちかくが「今のままでよい」とこたえたが、放送の中身については「時報がわりに利用する程度で、内容はほとんど聞いていない」と市では分析した。結局、青梅市では定時放送をやめることにした。現在は、火事などの緊急連絡と朝晩のチャイムだけになっているという。ディーガンは、こののこされた放送に対しても苦情をもうしたてているわけである。

ディーガンは、「防災無線の放送は積極的に耳を傾けて、しかも放送の内容がはっきりと聞き取れる住民でなければ、あまり役立つものとはいえない。むしろ、その不確実性が防災無線の大きな欠点であり、また落とし穴でもある」とのべる²⁾。またディーガンは、火事に関しては消防団員に携帯電話をもたせばよいことであるし、「地震の多発地帯や津波の危険性のある地域以外は防災無線はなくてもいいかもしれない」といい、チャイムをふくめて、身辺にいやおうな

1) C=J=ディーガン「日本人よ！ 拡声器騒音，防災無線にもっと怒りを！」『静かさはなにか』第三書館，1996．所収。

2) 同上，P.123．なお，災害時の防災無線の効力に関しては，廣井脩・中村功他『1993年北海道南西沖地震における住民の対応と災害情報の伝達』東京大学社会情報研究所，1994．等参照。

しにはいりこんでくる音の廃絶をうったえている。

このように防災無線の音声は、文化騒音および近隣騒音の典型をなしているといえる。近隣騒音の特徴の第6点目に、「被害者は行政から無視される」というものがあつた。こと防災無線にかぎっては、無視されるどころか行政そのものが騒音源になっているということも特異な点である。地域住民むけの放送が、地域住民のストレス源になっているのである。こうした地域放送をめぐる問題を、愛媛県松山市を例にとって次章以下で論じていくことにする。

第II章 松山市の広報放送

1. 松山市の概要

松山の名は、1603年、加藤嘉明が築城、松山城と名づけたことにはじまる。その後26年にわたる治世によって、近世都市松山の基盤が確立した。また、3代目の藩主松平定行が伊勢から転封以来、明治維新まで平和な城下町として繁栄をつづけた。当時は、武家屋敷が堀之内から一番町、二番町、三番町と城南地区にならびたち、城北地区に商業が集中していた。

明治維新以後、1873年に愛媛県庁が設置され県都となり、数回にわたる行政区画の変遷をへて、1889年12月15日、人口32,916人、戸数7,519戸、市域面積5.2km²で市制を施行、全国で39番目の市として出発した。

しかし松山市は、第2次世界大戦の戦災によって、市街地の中心部の大半を消失することになる。戦後ただちに戦災復興土地地区画整理事業が着手され、秩序ある市街地づくりや港湾・空港・道路等交通体系の整備をすすめられた。同時に、臨海部の埋め立て、工場誘致などにより工業都市としての性格もつよめられ、総合的な都市機能をそなえた近代都市への道をあゆみはじめた。

1955年、久米・湯山・伊台・五明の4村を合併。市の面積は2倍となる。そして、湯山・伊台の泉源と道後温泉の総合開発がおこなわれることになる。1959年浮穴村、1961年小野村、1962年石井村を、それぞれ合併した。石井村の編入により、松山市は面積242.95km²、人口253,779人となり、愛媛県中央都市圏構

想にもとづいて道後平野を一つにした50万都市建設を推進していくことになる。1968年には久谷村を合併し、現在の市域(面積288.88km²)にいたっている。

松山市の人口は、第二次世界大戦直後の1945年時点で、117,396人であった。これ以降、県庁所在地のある都市として一貫して市の人口はふえつづけた。1980年に人口40万人を突破して以降、増加率はにぶっている。1995年の時点で人口460,870人をかぞえ、四国最大の都市である。

産業別の就業者でみると、松山市では、第1次産業の減少がいちじるしい。1950年には、市内に13,266戸の農家があり、そのうち専業農家は5,086戸をかぞえた。1990年になると、総農家数は7,742戸、専業農家数は1,991戸にまで減少した。農業就業者数は、1950年で71,183人だったものが、1990年には31,761人までへることとなった。逆に、第三次産業就業者は、一貫して増加してきた。1990年には、就業者数144,534人をかぞえ、市内の全就業者数の70%をこえるにいたっている。こうした変化は、他の県庁所在地の都市と共通のものといえる。

地理的には、旧市域が市街地となっており、事務所や商店、公官庁が集積している。三津浜から垣生の臨海部が工業地帯となっており、道後が温泉を中心とした観光地区を形成している。また五明・伊台・湯山・小野といった市の東部地域と久谷は山間地である。その他の地域は、かつての農村地帯が宅地開発された混住地域となっている¹⁾。

2. 松山市のマイク放送

前節でみてきた松山市において、市の行政関係の広報や緊急連絡をする放送設備として、防災無線は設置されていない。かわりに存在しているのが、地域

1) この項は、光藤昇「松山市 のどかな地方中核・観光都市」『現代社会学論集』第2号、広島現代社会学研究会、1996。『松山市史第4巻』松山市役所、1995。『松山市統計書 平成7年度版』松山市役所、1996。『1993 市勢要覧松山』松山市総務部総務課、1993。を参考にした。

では「マイク放送」とよびならわされている放送施設である。これは通常、その地域の自治会・町内会の集会場内に放送用の設備が設置されている。放送担当者がそこではなしたことが、有線によって接続されている屋外にたてられた拡声器を通じて地域住民へながされるという方式である。

現在、松山市の公民館は小学校区に一つの割合で、33館ある。ここには、マイク放送の設備はない。それよりもちいさな単位で町内会・自治会が形成されている。町内会・自治会ごとに集会所が設けられており、これが市内各所に現在297か所ほど存在する。この自治会集会所には、おおむねマイク放送の設備がつくられている。ただし、松山市の中心部にあって商業施設が集積している八坂・番町・味酒といった地域には集会所そのものがなく、したがってマイク放送もおこなわれていない。

マイク放送の設備自体は、それほど高価なものではない。たいがい100万円程度でまかなえるという話である。こうした事業には、県からの補助金が初期投資に際してだされることになっている。4割が県の助成ということである。のこりの85%を松山市が負担し、15%を地元住民の寄付金によってたてられるという。県の補助がない場合は、総額の85%が市の負担で、15%が地元負担ということになる。この出資比率はかわらない。これは、マイク放送に関して市の規定がこのような比率にとりきめられているためである。補助金の支給は、最初に設備をつくる時のみであり、運営に関する補助金は存在しない。それゆえ、放送を担当する人に対して、市から手当てがでるようなことはない。その意味ではボランティアにたよって放送がおこなわれている。

このようなマイク放送がはじまったのは、「戦前からではないか」という市の担当部局の話であった。県の補助などの制度が整備されたのは戦後になってからではないかとのことである。マイク放送設備の設置は、ほとんどがその地元町内会・自治会からの要望によるという。

放送を担当する人間の任命に関しては、それぞれの町内会・自治会にまかされている。なかには連合町内会が存在するところもあり、そこが主体となつて

いる地域もある。市では、誰が放送を担当しているのかを把握していない。また市が、マイク放送に関してなんらかの手引書や実施要領を作成しているというようなこともない。これらはすべて、各自治会にまかされていると断言している。ゆえに、おなじマイク放送といっても、地域によって放送内容・放送時間はまちまちになる。

市からは、選挙管理委員会からの通達、節水のおねがい、納税期限のおしらせなどを各町内会・自治会のマイク放送を通じて広報してもらっている。これについては、放送文もあり、市の生涯教育課を通じて書面で各町内会・自治会に放送を依頼している。また警察からの交通安全や迷子に関する広報も、同様に依頼されている。

市当局では、放送がボランティアにたよりきりになっていることに関して、問題を感じている。放送担当者の研修会をひらいたこともあるという。話す前に、チャームをながすことをすすめる、市でくばったこともあるという。ただし、市役所に対して、一般市民からマイク放送に関する苦情がよせられることは、今までほとんどなかったという。市当局では、防災用や緊急時、一般行政の広報のために、このような放送の必要性もあるのではないかとかんがえている。市の担当者の個人的な意見として、緊急時のためだけの放送設備をつくるべきではないか、というかんがえをあかしていた。その際、無線式への転換がのぞましいとの意見であった。しかし、農山村地域においては、従来のマイク放送があった方が便利なのではないかとのべ、地域ごとにあった方式での放送が必要なのではないかということであった。

以上みてきたように、現行のマイク放送設備は、かなりの部分が市の負担によって整備されてきた。しかし、運営に関しては各町内会・自治会の自主的運営にゆだねられている。町内会・自治会の主体性が尊重されているといえなくもない。逆の見方をすれば、市は放送内容・放送時間や放送担当者についてほとんど関心をもたず、適切な指導を放棄してきたともいえる。また、放送の有効度に関する資料も、市民のマイク放送に関する態度についての資料も、市は

保持していない。たとえマイク放送をめぐる紛争がおきたとしても、市はなんらかの関与をおこなえるような事情にないのである。

第Ⅲ章 マイク放送をめぐる地域紛争

1. マイク放送問題～潮見ヶ丘地区の例

次に、マイク放送が地域の問題となっている区域として、潮見ヶ丘地区の事例をとりあげる。潮見ヶ丘地区は、松山市北部の潮見校区内にある吉藤町内会の中に存する新興住宅地域である。「新興」といっても、第一次の分譲がはじまってから、すでに四半世紀がすぎている。吉藤町内会は、下部に11の自治会をもつ。潮見ヶ丘は、この地域のみで一つの自治会を形成している。ここが、あとでくわしくのべるように、地区がはじまって以来、マイク放送を騒音として問題視してきた地域なのである。

2. 潮見校区の概要

潮見校区は、松山市の旧市域の北方に隣接している区域である。農村地帯であったところが宅地開発により、旧住民と新住民の混住する地域となっている。

潮見校区の就業者数でみると、1970年の時点で2,453人であった。以後、住宅地の造成がおこなわれていく中で、急激にふえつづけていき1990年には4,902人に達した。これは、おなじ時期の松山市全域の就業者数ののびをはるかに上まわる増加率である。

潮見校区内でも農業就業者は漸減傾向にある。校区別の統計がはじまった1970年の時点で686人いた農業就業者は、1990年には397人へと減少している。農家戸数でみると、1970年において総農家戸数366戸、専業農家数148戸が、1990年の時点で総農家数293戸、専業農家数123戸で、減少傾向にはあるものの松山市全体の離農率よりもひくい水準にとどまっているといえる。このことは、この地域がいまだに農村地帯の面影をうしなっていないことをしめている。一方で継続的におこなわれる宅地開発の結果、新住民も急増してい

る地域なのである。

3. 潮見ヶ丘地区のマイク放送

すでにのべたように、マイク放送が自治会や地域住民の間で問題視されている区域に、吉藤町内会の中に存在する潮見ヶ丘地区がある。ここは、それ以前は丘陵地帯であったところを住宅地として造営し、1971年に第一次の分譲がはじめられて形成された地域である。結果的に、潮見ヶ丘地区は新住民のみで構成されることになった。そしてその周囲には、ふるくからそこに居住する旧住民の住居が存在している。旧住民層には、農業をいとなむものもすくなくない。

マイク放送自体は、潮見ヶ丘地区の造成がはじまる以前に、吉藤ではすでにおこなわれていた。このマイク放送の屋外拡声器の一つが、潮見ヶ丘となる丘陵にもすえられていた。そして、潮見ヶ丘を造成する際の地主側の条件として、この屋外拡声器を残置することという一項がふくまれていたのである。

この潮見ヶ丘地区にある屋外拡声器は、型としてふるいものである。一つの柱に4連の拡声器がついているあたらしい形式のものとはことなり、一つの柱に一つの拡声器がついているだけである。この柱は、丘陵地帯を造成した潮見ヶ丘地区の端にすえつけられ、一つだけある拡声器は、潮見ヶ丘とは逆の方向にとりつけられている。拡声器のむく先には、丘陵地帯のふもとにある旧住民の住宅地域が存在している。この屋外拡声器は、明瞭に旧住民層の効用を意図してそなえられているわけである。逆に、潮見ヶ丘地区の住民の中からは、拡声器がちかすぎてうるさく感じる人々や、何をいつているのかききとれない(拡声器が反対方向をむいているため)のにもかかわらずおおきな音だけがはいってくると感じる人々などが、あらわれてくることになった。

このため、潮見ヶ丘地区への入居がはじまってすぐに、マイク放送は住民の間で問題となった。そこで、この地区の分譲をおこなった県の労働住宅協会へ、地域住民は改善をもうしいれにいった。労住協の側は「放送設備があるということ的前提にして契約したのだから」ということで、とりあわなかった。住民

の人の説明によれば、分譲説明会は放送のながれる時間帯ではなかったし、どの程度の放送なのか具体的説明はまったくなかったという。分譲側は、その時点では、このマイク放送が将来の紛争の種になりうるという意識にとぼしかったのだといえる。また、その後の対応も、形式的なものにおわった。

この吉藤におけるマイク放送の内容には、以下のようなものがある。農家の出荷作業や肥料配布に関する告知、Aコープ休業日のおしらせ、学校行事・どぶさらい・選挙・ごみの日・祭などに関する広報、告別式のおしらせ、迷子や災害に関する情報提供、「田に空き缶をなげないように」というような注意事項、「ほたるがでてきたのでみにくるように」というような勧誘などである。さまざまな事項が、マイク放送によってながされている。なかでも農業関連の情報はおおく、今でも農家の人々にはマイク放送の必要度がたかいといえる。

このマイク放送の問題に、市の生涯教育課は「地元で解決するように」と関与しなかったという。そのため、マイク放送の問題は、運営主体である町内会の場にもちこまれることになる。吉藤の町内会は、町内会長をふくめて執行委員が6名いる。この他に各地区の自治会長が地区代表として11名、特別地区役員が1名くわわって構成されている。町内会の会合は年に3～4回ひらかれる程度で、内部の広報委員会のみ月1回の割合でおこなわれるという。

吉藤に11ある自治会のうちの一つが潮見ヶ丘自治会である。潮見ヶ丘自治会では、内部を班にわけている。各班ごとに、1年任期の班の代表（「議員」とよんでいる）を住民がまわりもちでうけもつ。「議員」の中から自治会長が互選される。潮見ヶ丘自治会では、二月に1回会合がもたれている。このマイク放送の問題は、自治会の中でも重要事項の一つと認識されており、とりくみがなされてきた。

潮見ヶ丘地区の住民は、主として自治会を通じて町内会へはたらきかけをおこなってきた。かつては、朝昼晩と放送があり、放送時間もながいうえ、はやい時は朝の5時台からの放送もあったという。当時の町内会長は、「私が町内会長の間は放送問題を取りあげない」という姿勢であったという。それでも、問

題となっている屋外拡声器の位置は、真下に入居している家のない位置へと何度か変更された。放送自体も、次第に改善をみていくことになる。現在では、朝のみ（7時10分から）の放送になり、放送時間も短縮された。朝の5時、6時といった時間帯での放送も自粛されるようになった。町内会の態度もかわり、地域住民に迷惑をかけないようにするという方向にむかいつつあるところだという。

以下、次章ではこの区域の地域住民に対しておこなった地域コミュニケーションに関するアンケート調査の結果から、この問題についてほりさげていくことにする。

第IV章 コミュニケーション・メディアをめぐる問題

—住民アンケート調査から—

1. 調査の目的および方法

住民のマイク放送に対する態度の実態、およびマイク放送に対する不満の原因について明らかにするために、アンケート調査を行った。調査項目としては、マイク放送の様態、利用実態、マイク放送に対する態度、コミュニティー参加行動、コミュニティー意識、居住年数、居住形態、そして地域政治に対する行動や意識などについてたずねた。

調査対象は松山市吉藤町とそれに隣接した同市東長戸町の20歳以上の住民である。選挙人名簿から20歳以上の住民を各町200人ずつ、合計400人を抽出した。調査方法は訪問面接法で、松山大学の学生アルバイトが調査員となった。調査期間は1995年9月14日から25日の間である。有効回収数は282票で回収率は70.5%であった。

2. コミュニティーの特性

調査対象地域は県庁の5キロほど北にある住宅地である。農地や丘陵地を開発した比較的新しい宅地と、農家を中心とする古い宅地があり、農地もまだ残っ

ている。住民の居住年数を調べたところ新しい住民が多く、約半数（48.5%）の回答者が居住年数が10年未満であった。しかしその一方で20年以上の人が22.0%おり、新旧住民が混在した地域といえる。

表1 居住数年 (%)

1年未満	2.8
1年～5年未満	23.4
5年～10年未満	22.3
10年～15年未満	17.0
15年～20年未満	12.4
20年～30年未満	12.1
30年以上	3.5
生まれてからずっと	6.4

コミュニティー活動をしてみると、新住民が多いわりにはかなり活発になっている。たとえば近所づきあいの程度では「家にあがり、お茶や雑談をすることがある」と言う人が22.7%にものぼり、逆に「全くつきあいはない」とする人は1.1%とほとんどいなかった。

表2 近所づきあいの程度 (%)

家にあがり、お茶や雑談をすることがある	22.7
道であれば立ち話をする程度	38.3
道であってあいさつをする程度	37.9
全くつきあいはない	1.1

また、地域活動への参加度もとても高い。すなわち、52.5%の人が祭りへの寄付をしているのをはじめ、地区の清掃活動（46.5%）、市民大清掃（43.6%）、祭りに関係する行事（36.2%）、運動会（32.6%）、文化祭（17.7%）など、そもそも大都市では見られないような行事が活発に行われ、1/3から半数近い住民がそれに参加しているのである。

こうした活発な地域活動の結果、地域に対する愛着を感じている住民も多い。すなわち地域への愛着を非常に感じるとする人は14.2%、かなり感じている人

表3 地域活動への参加度 (%)

市民大清掃	43.6
運動会	32.6
祭に関係する行事	36.2
祭への寄付 (世帯で)	52.5
文化祭	17.7
地区の清掃	46.5
その他	3.9

表4 地域に対する愛着 (%)

非常に愛着を感じる	14.2
かなり愛着を感じる	36.5
どちらともいえない	35.1
あまり愛着を感じない	13.1
全く愛着を感じない	1.1

が36.5%と、回答者の約半数が地域に愛着を感じていた。

また、マイク放送を行っている自治会や町内会に対する参加度も高い。回答者の36.9%が町内会の役員を経験しており、16.7%が自治会の役員を経験していた。それに呼応するように自治会や・町内会に対する評価も高く、70.8%の人が「あったほうが良い」と考え、「ないほうが良い」とした人はわずか2.5%にすぎなかった。

このように比較的新しい住民が多いわりには、地域活動参加も活発で、地域に対する愛着も高いという特徴がある。なぜこのようなことが起こるのであるのか。奥田(1983)を参考にして地域社会に対する住民意識をたずねた¹⁾。その

1) 奥田(1983, p32)は地域社会の分析枠組みとして、住民の行動体系(主体化-客体化)と意識体系(普遍化-特殊化)を組み合わせ、4つの地域モデルを提案している。第一は特殊化-主体化の枠組みに相当する「地域共同体」モデルで、ここでは地元共同意識を持つ伝統型住民層が想定される。第二は特殊化-客体化のカテゴリーの「伝統型アノミー」モデルである。ここでは放任、諦観的意識を持つ無関心型住民層が想定される。第三は普遍化-客体化の枠組みを持つ「個我」モデルで、ここでは市民型権利意識を持った権利要求型住民層が想定される。第四は普遍化-主体化の枠組みを持つ「コミュニティー」モデルで、ここで

結果「地域社会は自分の生活のよりどころであるから、住民がお互いにすすんで協力し、住みやすくするように心掛ける。」といった住民主体者意識をもつ自治型住民層が46.4%と最も多く、ついで「この土地にはこの土地なりの生活やしきたりがあるので、できるだけこれに従って、人々との和を大切にしたい。」という地域共同意識を持つ伝統型住民層が33.3%と多かった。その一方「この土地にたまたま生活しているが、さして関心や愛着といったものはない。地元の熱心な人々に、地域をよくしていつてもらいたい。」といった放任、諦観的意識を持つ無関心型住民層は13.0%、「この土地に生活することになった以上、自分の生活上の不満や要求をできるだけ市政その他に反映していくのは、市民としての権利である。」という市民型権利意識を持つ権利要求型住民層は7.2%しかいなかった。地域活動に積極的で保守的な志向を持つ人が多く、大都市によく見られる無関心型や、権利要求型といった新しい考え方の人は少なかった。吉藤や東長戸といった地区は確かに新しい住宅地なので他所から転入してきた新住民が多い。とはいっても彼らの多くは松山市やその周辺といった比較的近い地域から転入してきたと考えられる。そうした地域ではいまだに地域コミュ

表5 地域社会に対する住民意識 (%)

この土地にはこの土地なりの生活やしきたりがあるので、できるだけこれに従って、人々との和を大切にしたい。	33.3
この土地にたまたま生活しているが、さして関心や愛着といったものはない。地元の熱心な人々に、地域をよくしていつてもらいたい。	13.0
この土地に生活することになった以上、自分の生活上の不満や要求をできるだけ市政その他に反映していくのは、市民としての権利である。	7.2
地域社会は自分の生活のよりどころであるから、住民がお互いにすすんで協力し、住みやすくするように心掛ける。	46.4

は住民主体者意識を持った自治型住民層が想定されている。そしてこれらのモデルのイメージを調査質問に置き換えたのが、今回利用した4つの質問である。奥田はこれによりコミュニティ類型を確定しようとしているようだが、質問内容を見ると行動面ではなく意識面を聞いているようなので、本論では住民意識を聞く質問とした。

ニティーが活発で、地域に対する考え方も従来どおりの人が多いのではないだろうか。従って新興住宅街に引っ越してきても、その地域を重視し、コミュニティ活動へも積極的に参加する人が多いのではないだろうか。

3. マイク放送の利用実態・評価

では、この地区におけるマイク放送とはどのようなものなのだろうか。まず聞こえ方だが「音も大きく内容もよく聞き取れる」という人は32.4%と1/3しかいなかった。「音は大きい、よく聞き取れない」(29.2%)や「音も小さく、よく聞き取れない」(23.1%)など、音は聞こえているが内容が聞き取れないという人が多かった。そして「全く聞こえない」という人も12.1%いた。このように、マイク放送は性能面からいって、実際の情報伝達能力は低いようである。

表6 マイク放送の聞こえ方 (%)

音も大きく内容もよく聞き取れる	32.4
音は大きい、よく聞き取れない	29.2
音は小さい、よく聞き取れる	3.2
音も小さく、よく聞き取れない	23.1
全く聞こえない	12.1

つぎに、マイク放送が聞こえる頻度をたずねたところ、週1回程度が46.9%と最も多く、ついで週2回が12.7%、週0回が11.4%、週0.5回が10.6%と、平均するとだいたい週1回程度行われているようである。マイク放送の時間帯で多いのはいつかをたずねると、午前7時から9時までとする人が67.5%と朝の時間帯が最も多かった。また午後4時から7時までとする人も26.9%おり、夕方の時間帯もしばしば放送されているようだ。しかしなかには午前6時台と答える人も3.7%おり、かなり早朝に放送されることもあることが伺える。このように放送は朝を中心的時間帯としているが、人々の生活時間帯が多様化している現代では就寝中の場合もあり、その辺が迷惑につながる可能性があるだろう。

また一回当たりの放送時間を聞くと、1分から2分とする人が50.7%と最も多かった。ついで1分以内が33.3%と、比較的短い時間の放送といえる。

では、このようなマイク放送を住民はどのように評価しているのでしょうか。まずどのくらい役に立っているかをたずねたところ、大変役立つとする人は13.6%、多少役に立つとする人は35.6%で、約半数の人が役立つとしている。しかし逆に役に立たないと言う人もほぼ同数おり、評価は2分している。

次に放送をどのくらい迷惑かをたずねたところ、「大変めいわくに感じる」という人は3.2%と少なかったが、「多少めいわくに感じる」人が14.1%おり、あわせて2割近い人が多少とも迷惑だと感じていた。また「以前はめいわくに感じたが、もう慣れた」とする人が10.5%もあり、人間の順応性を感じるが、あわせると3割近い人が一度は迷惑を感じていたということになる。

表7 マイク放送の役立つ程度 (%)

たいへん役に立つ	13.6
多少役に立つ	35.9
あまり役に立たない	37.3
全く役に立たない	13.2

表8 マイク放送の迷惑の程度 (%)

大変めいわくに感じる	3.2
多少めいわくに感じる	14.1
めいわくに感じない	72.3
以前はめいわくに感じたが、もう慣れた	10.5

表9 マイク放送が迷惑な理由 (%)

音量が大きい	36.8
内容が聞き取れない	42.1
放送時間帯が早い	31.6
内容が不必要	36.8
しゃべり方がよくない	7.9
放送時間が長い	0
その他(具体的に)	2.6

さらに迷惑と感じる人にどのような点が迷惑かをたずねると、内容が聞き取れない (42.1%)、音量が大きい (36.8%)、内容が不必要 (36.8%)、放送時間帯が早い (31.6%) などが多かった。

つぎにどのような内容が必要とされ、どのような内容が不必要とされるのかをたずねた。不必要が必要を上回ったものには「農家の出荷作業」「肥料の配布」「土地改良区のお知らせ」など農家関係のものと「Aコープの休日」という農協スーパー関連のものがあつた。地域では農家は一部にしかすぎず、またAコープも一部の人しか使わないために不必要とする人が多いのであろう。その一方で多くの人が必要とする内容としては「災害関係」(74.8%)、迷子 (68.4%)、祭り関係 (67.8%)、「投票の呼びかけ」(47.2%)、学校の行事 (44.9%)、どぶさらい (43.6%)、ゴミの日 (42.5%) などがあつた。災害や迷子などの非常時や、祭りや選挙など頻度が少なく、特別な感じのするものについては、必要性を感じている人が多いようだ。

さらに今後のマイク放送のあり方についてたずねたところ、地域放送は廃止すべきとする人は3.9%と少なかったものの、「今のまま続けるべき」とする人

表10 マイク放送の内容別必要度 (%)

	必要	不必要	どちらでもよい	放送せず
1. 農家の出荷作業	8.0	32.4	16.4	43.2
2. 肥料の配布	7.0	31.9	15.0	46.0
3. 学校の行事	44.9	20.4	17.1	17.6
4. 告別式等のお知らせ	38.0	14.1	17.4	30.5
5. どぶさらい	43.6	12.8	20.4	23.2
6. ゴミの日	42.5	9.0	16.5	32.1
7. 投票のよびかけ	47.2	14.5	24.8	13.6
8. 祭関係	67.0	9.0	21.2	2.8
9. 災害関係	74.8	3.3	6.5	15.4
10. 迷子	68.4	7.4	12.1	12.1
11. Aコープの休日	4.6	27.2	18.9	49.3
12. 土地改良区のお知らせ	16.7	31.5	23.6	28.2
13. その他 ()	22.0	10.2	16.9	50.8

は約半数にとどまり、何らかの改善を望む声も多かった。マイク放送のあり方についても考え直す時期がそろそろ来ているのかもしれない。

表11 マイク放送の今後のあり方 (%)

今のまま続けるべき	49.3
放送のやり方を変えるべき	24.5
ボリューム調整のできる各家庭の個別受信機で代替するべき	15.2
CATV で代替すべき	6.0
地域の放送は全く廃止すべき	3.9
その他	5.7

4. マイク放送に対する不満の要因

どのような要因がマイク放送に対する不満と関係しているのだろうか。問 17 の迷惑についての質問で「大変めいわくに感じる」と「多少めいわくに感じる」と答えた人を不満のある人、それ以外を不満のない人として関係ありそうな変数とクロス集計をした。不満のある人は全体の 17.3%であった。カイ二乗検定の結果、不満と有意に関係する変数として、①居住年数②住居形態③地域への愛着④町内会役員経験⑤町内会に対する評価⑥地域社会に対する住民意識⑦地域情報の必要性などがあつた。しかしそのほかの性別、年齢、学歴などの諸変数や、マイク放送の聞こえ具合、地域活動への参加度とは関係が見られなかった。

居住年数との関連では居住年数を 5 年未満、5 年から 15 年未満、15 年以上にわけて不満を持つ人の割合をみたところ、それぞれ 31.5%、9.6%、15.7%となっており、5 年未満の居住年数が短い人の不満がとくに高かった($\chi^2 : p < 0.01$)。やはり当地に来たばかりの人はマイク放送に慣れていないので、不満を抱きやすくなるのであろう。

住居形態では、一戸建ての持ち家(借地) (40.0%)、民間の賃貸マンション・賃貸アパート (30.4%)、分譲マンション (100%)、などで不満を持つ人が高かった ($\chi^2 : p < 0.05$)。集合住宅など地域と関係が薄い人の不満が高いようだ。

地域への愛着は関係がかなりはっきり出ている。やはり愛着のない人のほうが不満を感じる人が多い。すなわち、不満のある人は「非常に愛着を感じる」人で14.7%、「かなり愛着を感じる」人で16.2%は、「どちらともいえない」人で12.1%と平均より少ないのに、「あまり愛着を感じない」人では33.3%、「全

表12 マイク放送に不満を持つ人の割合

(%)

居住数年 **						
5 年未満 31.5	5－15年 9.6	15年以上 15.7				
住居形態 *						
戸建(借地) 40.0	賃貸マンション 30.4	分譲マンション 100	戸建(土地付) 18.4	戸建(借家) 22.6	社宅 16.7	公営 0
愛着 **						
非常に感じる 14.7	かなり感じる 16.2	どちらでもない 12.1		あまり感じない 33.3	全く感じない 100	
町内会役員経験 **						
あり 8.4	なし 22.6					
町内会評価 *						
あったほうが良い 13.8		どちらともいえない 22.2		ないほうが良い 50.0		
地域社会に対する住民意識 **						
伝統型 15.2	無関心型 34.4	権利要求型 40.0		自治型 9.1		
地域情報必要度 *						
大いに必要 18.4	多少必要 13.4	あまり必要でない 25.0		全く必要でない 66.7		

* $\chi^2 P < 0.05$ ** $\chi^2 P < 0.01$

く愛着を感じない」人では100% (ただし2人中) の人が不満を持っていたのである ($\chi^2 : P < 0.01$)。

地域団体への参加では、町内会の役員経験がある人は不満を持つ人が8.4%

と、経験のない人の22.6%に比べて明らかに少ない($\chi^2 : p < 0.01$)。しかしその他の地域活動への参加や、団体への参加は不満の有無と関連を持たなかった。これは放送を町内会関係者が行っているためであろう。

同様の理由で町内会に対する評価が高い人にはマイク放送に不満を持つ人が少ない。すなわち町内会が「あったほうが良い」とする人で不満のある人は13.8%なのに対し、「どちらともいえない」とする人は22.2%、「ないほうが良い」とした人は50.0%が不満を持っていた($\chi^2 : p < 0.05$)。

地域社会への意識も不満に大きな関係を持っている。すなわち、伝統型と自治型でマイク放送に対する不満が、それぞれ15.2%、9.1%と少ない一方で、権利要求型では40.0%、無関心型では34.5%と不満を持つ人が多かった($\chi^2 : p < 0.01$)。

最後に地域情報を必要とする程度との関連だが、地域情報を「大いに必要」とする人では18.4%、「多少必要」では13.4%と不満を感じる人が少ないのに、「あまり必要でない」とする人は25.0%、「全必要でない」人では66.7%と不満を持つ人が多くなっている($\chi^2 : p < 0.05$)。

これらマイク放送に対する不満と関係のあった諸変数の間には相互に関連のあるものがある。たとえば町内会役員経験と町内会に対する評価とか、居住年数と地域に対する愛着など。従ってマイク放送に対する不満の真の要因を探すには、それらを調整した上で、どの変数がどのくらい不満と関係しているかをとらえる必要がある。そのために今回は多変量解析の手法の1つである数量化I類を使うことにした。すなわちマイク放送に対する不満の有無(1 or 0)を外的基準とし、すでに行ったカイ二乗検定で有意な関係のみられた7変数(居住年数、住居種類、地域への愛着度、町内会役員の経験の有無、町内会への評価、地域社会に対する意識、地域情報の必要度)をアイテムとして数量化I類の分析を行った(25頁図1参照)。

その結果、マイク放送への不満に最も関係深い変数は偏相関係数が0.23と最も高い地域社会に対する意識であった。その中では市民型権利意識(権利要求

型)と放任諦観的意識(無関心型)が不満につながっているようだ。一方住民主体者意識(自治型)は不満を減らす要因として働いていた。このように居住年数などをおさえて、地域に対する考え方の持ちようがもっとも不満に関係する、という知見は興味深いものである。ついで関係が深いのは偏相関係数が0.20の住居の種類である。借地一戸建てと分譲マンションが不満につながり、寮や社宅では不満が少なかった。ついで居住年数と、地域への愛着が不満と関係があった(偏相関係数はともに0.18)。レンジでは地域への愛着が「全くない」というカテゴリーで0.57と著しく高くなっている。それにも関わらずアイテムの偏相関があがらないのは該当人数が2人と少ないからである。しかしこれが多ければやはり地域社会に対する意識と同様に、影響力が強い変数になったであろう。地域生活に対する姿勢や愛着といった心理的要因がマイク放送に対する不満と深く関係していることがわかる。

その一方で自治会に対する評価は他の変数と比べてあまり不満に影響していないようである。

5. 今後の対策

もし今回の結果のように、マイク放送に対する不満が地域社会に対する意識や、地域への愛着度といった必理的要因や居住年数などに大きく影響されているとしたら、今後どのようなことが起こると考えられるのであろうか。松山でも都市化によって地域に対する関心は薄くなりつつある。また新興住宅地では新入住民が増えることにより居住年数の少ない人も多くなってくるだろう。こう考えると今後こうした不満につながる要因は増えることがあっても減ることはないであろう。一方放送の聞こえ方と不満が関連ないとすれば、放送設備や放送の仕方の改善によって不満が減少するともあまり考えにくい。個々の住民は居住年数が増えるにつれて、慣れが生じ不満度が下がることはあるが、全体としてはマイク放送に対する不満度がますます増えていくことが考えられる。このように考えると、現在のようなマイク放送を続けながら、不満を低下させ

[illegible]

ることはかなり困難であると考えられる。

文献：奥田道大『都市コミュニティの理論』東京大学出版会，1983年

第V章 個別受信機による地域放送～川内町の事例

1. もう一つの防災無線

防災無線の形態は，屋外にすえつけられた拡声器によるものだけではない。各世帯個別に受信機を設置し，それを通じて放送をうけとるという方式も存在する。松山市の近辺では，川内町がこのシステムを採用している。松山市のマイク放送と対比する意味で，もう一つの地域放送システムとして，川内町の行政防災無線の例を検討することにする。

2. 川内町の概要

川内町は，愛媛県中予地方に存する町である。県都・松山市の近郊に位置する。現在の川内町の町域にあたる地域は，幕末時には松山藩に属す9ヶ村からなっていた。1889年（明治22年），市町村制が施行され，翌1890年（同23年）に久米郡北方村・松瀬川村・下浮穴郡南方村・吉久村が合併し川上村へ，下浮穴郡河之内村・則之内村・井内村がおなじく合併し三内村となった。1897年（明治30年）の郡境変更時に，両村は温泉郡に編入された。

1955年（昭和30年）4月，川上村と三内村の両村は合併し，川内村が誕生した。当時の人口は11,869人であった。あくる年の1956年（昭和31年）に，近隣の滑川・明河地区を編入し，町制を施行し，現在の川内町が成立した。面積は110.86 km²である。

町制成立以降，1970年代半ばまで川内町の人口はへりつづけた。1975年の時点で，9,005人にまでへった。つまり，高度経済成長期を通じて，川内町からは人口の流出がつづいたわけである。低成長へ転換して以降，川内町では人口増加に転じ，1995年時点で10,790人にまで回復した。これは，新住宅団地の造成があったことや，松山市から自動車ですぐ町中心部まで40分程度という地域的な

どのため、川内町にあらたに住宅をもとめて流入してくる層がふえてきたせいであるといえる。このため、川内町内にも、新興住宅地といえる場所がみられるようになっていく。

このような人口の流出と流入の背後で、川内町の産業構成もおおきく転換したといえる。1960年の時点で、産業別人口の3分の2をしめ、主力産業の地位にあった農林業は、その後一貫して衰退した。1960年、1,634戸あった農家戸数は、1995年には990戸にまで減少している。なかんずく専業農家は、1960年で628戸あったものが、1995年には163戸と、4分の1ちかくにまで激減している。

逆に製造業は、1960年時点で事業所数27、従業者数123人であったものが、1991年には事業所数52、従業者数1,779人をかぞえるまでに成長している。従業者数でみると14倍以上の成長である。町内における産業別の従業者では首位をしめるにいたっている。近年になって、ますます川内町の製造業は成長の軌跡をえがいており、従業者数は2,000人を優に突破し、工業出荷額でも成長をつづけている。川内町における主力産業は、この40年間で農林業から製造業へおおきく転換したといっていよい¹⁾。

以上のように川内町は、松山市近郊に位置するという地理的条件ゆえ、以前の農村地帯に、新興住宅地や製造業が混在するという特色をしめす地域であるといえる。

3. 川内町の行政防災無線

川内町の行政放送は、1957年から1998年3月まで有線放送電話を通じておこなわれ、1998年4月から現在の行政防災無線にきりかわった。

有線放送電話は、国の法律施行をうけて整備を開始し、1957年12月から業務が開始された。1973年に改修がなされ、自動交換機が設置されるようになった。

1) この項は『町制施行40周年記念町勢要覧』川内町役場総務課、1996。を参考にした。

しかしその後、製造会社が有線放送電話の交換機の製造を中止、交換機の部品が入手困難になってきた。また、主としてあたらしく町内に転入してきた住民を中心に有線放送電話に加入しない人々も増加してきた。加入率は、有線放送電話が廃止される直前で48%程度におちこんでいた。こうした状況下で、教育関係の連絡事項（学校行事の実行・中止のしらせ等）が住民につたわないというような不都合もめだつようになってきた。また有線であるため、それを維持していくための保守管理も必要であった。

以上のように、以前より有線放送電話は限界につきあたっていた。ここに、1995年1月阪神大震災が発生した。これを境に、災害時の緊急連絡設備に関して、町当局の意識もたかまった。一方、国は緊急防災基盤整備事業を発足させた。これは起債事業で、事業総額の9割まで起債をみとめ、そのうちの5割が地方交付税で自治体に還付されるという仕組みであった。実質的には総額の45%が補助されるわけである。川内町ではこの制度を利用して、有線放送電話を行政防災無線に更新させることにした。

現行の行政防災無線は、2億7,405万円かけて整備された。発信設備は町役場に設置してある。受信装置は各世帯ごとに個別に貸与された。現在川内町には約3,600世帯があるが、受信装置は約3,100台配布されているところである。受信装置貸与ということで、この設備更新に関して各世帯が特別の負担をすることはなかった。故意によるものではない故障に関しては、修繕費用も町の負担ということになっている。

個別受信装置は、基本的にはコンセントからとる電気で作動している。コンセントからの電気の供給がなくなると、自動的に内蔵の電池による作動にきりかわる。それゆえ、停電中でも緊急の連絡がつたわる仕組みになっている。放送には定時放送と緊急時の放送とがある。音量を0にしておくと定時放送はきこえない。しかし、緊急放送は音量をどれだけしぼっていてもきこえるように、あらかじめ設定がなされている。また、地区ごとの設定もなされており、ある地区に限定しての放送も可能となっている。

現在の定時放送は、午前6時30分からと午後7時30分からとの2回おこなわれている。放送時間は、それぞれ5分程度とのことである。放送は町役場の総務課が担当しており、内容は行政や防災に関する告知である。以前の有線放送電話の時代には、午前6時30分、午後12時20分、午後7時30分の3回の放送がなされていた。内容的には、現在の放送にくわえて料金をとって広告放送もおこなわれていた。行政無線放送になって、12時20分の放送はきく人がすくないという理由で廃止された。広告放送に関しては、電波法の規制からおこなえず、また町当局がそうした放送をすることにも問題があるのではないかということもあり廃止された。その結果、かつてより放送時間はみじかくなっている。

世帯個別の受信装置の他に、屋外にも受信放送システムがある。町内に30機設置されている。ふだんは、正午と午後6時に時報がわりに音楽がながされる。音量はしぼっているということだが、新興住宅地では「うるさい」という苦情がでたこともあった。これは拡声器の向きをかえて対処した。緊急時には、個別受信機へながされる放送が、ここからもながされる。

川内町では、移動系の無線も整備がすすめられ、消防団の各分団（8分団ある）に配備された9台をふくめて31台の車載の無線機が存在している。

町当局は、行政防災無線に関する住民の反応について、今のところ苦情らしい苦情はないとのべている。10月の台風の後には、当初個別受信機をいらないといていた世帯の中からも設置希望がでるようになったという。こうしたことからみても、この行政防災無線が災害時に有効性を発揮しているとの評価をくだしうるであろう。

川内町には、この行政防災無線以外に、各行政区ごとに有線放送システムがある。これは松山市のマイク放送と同様のものである。町のコミュニティ整備事業の一環として整備され、運営は行政区にまかされている。しかし、町関係の広報は行政防災無線を通じておこなわれているので、各行政区の常会や清掃のおしらせにつかわれている程度だという。

4. 川内町と松山市の地域放送

松山市と比較して、川内町の場合、町の広報が音量を0にすることも可能な個別受信装置を主におこなわれているため、自治体当局が近隣騒音の音源になることからまぬがれている。しかしこの川内町にしても、屋外に設置された拡声器に関しては、たとえわずかな時間かかるにすぎない音楽であったとしても、やはり苦情がでたという。市民意識のたかまりとともに、このような苦情がでてくるのは避けられなくなる。ほんとうに時報が必要なのかどうかということは、一考に値する事柄であるといえる。

人口46万人にのぼる松山市と1万人の川内町を同列に論じることはできない。川内町で個別受信機をもちいた行政防災無線が導入できたことには、以下の三つの理由があるようにおもわれる。第一に、人口規模があたらしいシステムに更新することを可能にする程度のものだったこと。第二に、それ以前に有線放送という下地があったこと。第三に、阪神大震災以後、行政当局内部での防災意識のたかまりがみられ、新システム導入への合意形成が容易であったことである。すべての自治体で、川内町のような形態がとれるわけではない。しかし、一つの選択肢としてここに検討してみた。

第VI章 地域放送とコミュニティ

現代は、情報化ということが喧伝される時代である。事実、電話やパソコンを通してガンパートのいう「地図にないコミュニティ」が形成されている¹⁾。地域的な空間を共有する隣人よりも、メディアを介した人的つながりの方により関与する人々も、今やめずらしくない。

こうした時代状況の中で、いまだに日本では、屋外の拡声器を使用した地域放送が各地に存在しているのである。かつての村落のように、そこにすむ人々の関心が共有されていて、生活習慣も類似のものであった場合は、このような

1) ゲーリィ＝ガンパート『メディアの時代』新潮社、1990、P.232 以下。

放送もうけいれられる余地があったであろう。しかし、さまざまな意識や生活時間を異にする人々が混住するような地域環境の中で、受容が拒否できないような放送がなされることは、地域紛争の火種となることであろう。

松山市の吉藤町・東長戸の場合、マイク放送が「役に立つ」と評価している人の割合がおおきいのは農林水産業の世帯である。他の職業の世帯では、「役に立つ」という評価と「役に立たないという評価」が相半ばしている。

一方で、皮肉なことに地域住民からもっとも必要度がひくいと判定されているのが、農業関係の情報なのである（第IV章 表10 参照）。これは、農家以外には必要のない情報なので、当然このような結果を招来する。一部の人々にとって必要な情報が、不特定多数の人々へながされていて、それをこぼむことができない状況がここにあるのである。

とりわけ第III章でとりあげた潮見ヶ丘地区の事例は、マイク放送を必要とする住民層と迷惑施設ととらえる住民とが拡声器をはさんで隣接しているところに問題解決の困難さがあった。宅地分譲の際、地主側が拡声器の残置を条件と

表13

世帯主の職業 × マイク放送の役に立つ 程度	事務 的 職 業	販 売 的 職 業	熟 練 ・ 労 務 的 職 業	専 門 的 職 業	管 理 的 職 業	農 林 水 産 業	無 職
たいへん役に立つ	1	3	5	9	5	5	1
多少役に立つ	15	6	16	20	9	5	3
あまり役に立たない	10	13	19	21	9	0	8
まったく役に立たない	4	8	5	8	1	1	1

(数字は実数)

したことからもうかがえるように、潮見ヶ丘周辺にはその放送を役に立つと感じる農家世帯や旧住民層が存在する。一方は、潮見ヶ丘にすむ人々は、この放送を必要と感ぜない文字通りの新住民であったわけである。

さらにこの問題のむずかしさは、第I章でも検討したように、被害範囲がせまくかぎられることである。前にのべたとおり、潮見ヶ丘地区では自治会がこの問題を取りあげて活動してきたのだが、実はおなじ潮見ヶ丘でも拡声器からはなれた人はなんら実害をこうむっておらず、被害者の苦痛を実感することはないのである。こうした近隣騒音・文化騒音は第三者の理解をえることが困難であるということだが、マイク放送でも同様のことがいえる。

第IV章で、マイク放送への不満度は、地域社会に対する住民意識との関係がふかいことが指摘された。不満を構成するのは、「アノミー型」の意識をもつ住民と「個我型」の意識をもつ住民である。この両者の型は、奥田道大によれば、伝統的な地域共同体が解体した後にあられるもので、地域性へのマイナス志向でくくれる型である²⁾。すなわち、かつてのような地域の共同性がくずれていき個人生活を優先させる人々が流入してくるにしたがって、マイク放送のような形態の地域放送は支持をうしなっていくのだとかんがえられる。

以上のように、都市化していけばいくほど拡声器をつかった地域放送は「騒音源」と化していくといえる。しかし、今回のアンケート調査の結果からは、「災害関係」の情報に関してはマイク放送でも大多数の支持がある（必要—74.8% 不必要—3.3%）ことがわかった。このような結果を、今後のマイク放送は尊重して運営されていくべきであろう。

最後に、これまで松山市では、マイク放送の運営を町内会・自治会にゆだねてきた。マイク放送をめぐる問題には、介入しないという立場をとってきた。しかし、以上のような調査結果も考慮にいれ、放送内容の精選や拡声器の音量、放送時間帯について、自治体としてなんらかの指針をしめしていくべきではな

2) 奥田道大『都市型社会のコミュニティ』勁草書房、1993、P.13.

いだろうか。

おわりに

本研究は、1995年度松山大学地域研究助成金の交付を受けてなされたものである。聞き取り調査およびアンケート調査は、市川虎彦・中村功の両名がすべて共同でおこなった。報告書の執筆は、第IV章を中村功が、それ以外はすべて市川虎彦が分担した。

聞き取り調査の段階からアンケート調査の実施にいたるまで、松山大学文学部社会学科の学生の石田仁君、原口由紀子さん、宮藺美帆さん（50音順）の協力をえた。また、報告書の資料作成は、おなじく社会学科の学生である宮田直明君があたった。4名の学生諸君に、この場をかりてお礼をいいたい。

また、調査にご協力いただいた松山市役所生涯教育課、川内町役場総務課、松山市民のみなさんにお礼もうしあげます。

調査表および単純集計

地域生活に関するアンケート調査

調査員 ()

N = 282

--	--	--

①

(まず、お住まいの地域とあなたの関係についておうかがいします。)

問1 あなたが今のところにお住まいになって何年になりますか。

SA

1	1年未満	2.8
2	1年～5年未満	23.4
3	5年～10年未満	22.3
4	10年～15年未満	17.0
5	15年～20年未満	12.4
6	20年～30年未満	12.1
7	30年以上	3.5
8	生まれてからずっと	6.4

問2 あなたの、今のお住まいの種類はつぎのどれでしょうか。

SA

1	一戸建ての持ち家 (土地付)	56.4
2	一戸建ての持ち家 (借地)	1.8
3	一戸建ての借家	14.5
4	分譲マンション・分譲アパート	0.7
5	民間の賃貸マンション・賃貸アパート	11.7
6	社宅・官舎	7.1
7	独身寮・学生寮・住み込みなど	0
8	公営住宅	7.4
9	その他 ()	0.4

問3 今お住まいの地域にどれくらい愛着を感じていますか。

SA

1	非常に愛着を感じる	14.2
2	かなり愛着を感じる	36.5
3	どちらともいえない	35.1
4	あまり愛着を感じない	13.1
5	全く愛着を感じない	1.1

問4 あなたはどのような近所づきあいをしていますか。

SA

1	家にあがり、お茶や雑談をすることがある	22.7
2	道であれば立ち話をする程度	38.3
3	道であってあいさつをする程度	37.9
4	全くつきあいはない	1.1

問5 あなたは地域の活動に参加していますか。参加している活動をいくつでも選んで下さい。

1	市民大清掃	43.6
2	運動会	32.6
3	祭に関係する行事	36.2
4	祭への寄付（世帯で）	52.5
5	文化祭	17.7
6	地区の清掃	46.5
7	その他（ ）	3.9

問6 あなたは次のような地域団体に参加した（している）ことがありますか。

MA

1	町内会（役員として）	36.9
2	地区自治会（役員として）	16.7
3	消防団	4.6
4	その他（具体的に ）	8.9

問7 あなたは自治会・町内会はあったほうが良いとお考えですか。ないほうが良いとお考えですか。 SA

1	あったほうが良い	70.8
2	ないほうが良い	2.5
3	どちらともいえない	26.7

付問1 (問7で、あったほうが良いとお答えの方に)その理由を次のうちから一つ選んでください。 SA

1	地域内の統合・調整をはかるため(合意形成・諸集団間の調整)	33.8
2	親睦・住民の交流のため(祭礼・慶弔など)	36.9
3	防犯・衛生・管理を行うため	18.7
4	社会教育活動・地域文化活動を行うため	5.1
5	行政に対して陳情・要求を行うため	1.0
6	行政の補助機構として(行政連絡の伝達・募金の要求など)	3.5
7	その他()	1.0

問8 現在の自治会・町内会のあり方に何か問題点を感じていらっしゃることはありませんか。もしありましたら、具体的にお聞かせください。

問9 地域の生活について次の4つの意見の中から、あなたの意見にもっとも近いものを1つ選んでください。

- | | | |
|---|---|------|
| 1 | この土地にはこの土地なりの生活やしきたりがあるので、できるだけこれに従って、人々との和を大切にしたい。 | 33.3 |
| 2 | この土地にたまたま生活しているが、さして関心や愛着といったものはない。地元の熱心な人々に、地域をよくしていつてもらいたい。 | 13.0 |
| 3 | この土地に生活することになった以上、自分の生活上の不満や要求をできるだけ市政その他に反映していくのは、市民としての権利である。 | 7.2 |
| 4 | 地域社会は自分の生活のよりどころであるから、住民がお互いにすすんで協力し、住みやすくするように心掛ける。 | 46.4 |

問10 あなたは町内に関する情報を何から得ていますか。次の中からいくつでも選んで下さい。

MA

- | | | |
|---|----------|------|
| 1 | 回覧版 | 85.5 |
| 2 | 人づて（口コミ） | 29.1 |
| 3 | マイク放送 | 40.1 |
| 4 | 掲示板 | 9.9 |
| 5 | ビラ | 8.9 |
| 6 | その他（具体的に | 3.2 |

問11 あなたはお住まいの地域に関する情報をどの程度必要としていますか。

SA

- | | | |
|---|----------|------|
| 1 | おおいに必要 | 22.1 |
| 2 | 多少必要 | 57.3 |
| 3 | あまり必要でない | 18.5 |
| 4 | 全く必要でない | 2.1 |

(次にあなたの地域で行われている「マイク放送」についておうかがいします。)

問12 お宅ではマイク放送がどのくらい聞こえますか。

SA

1	音も大きく内容もよく聞き取れる	32.4
2	音は大きいですが、よく聞き取れない	29.2
3	音は小さいが、よく聞き取れる	3.2
4	音も小さく、よく聞き取れない	23.1
5	全く聞こえない →問19へ	12.1

問13 あなたはマイク放送を週に何回ぐらい聞きますか。大体で結構ですのでお答え下さい。全く聞かない場合は0とお答え下さい。

週	<input type="text"/>	回程度	1—46.9	0.5—10.6	7—4.1
			2—12.7	3—4.1	6—3.3
			0—11.4	5—4.1	4—2.9

問14 あなたがマイク放送を聞くのは何時頃が多いですか。

SA

1	午前6時台	3.7
2	午前7—9時台	67.6
3	午前10—12時台	1.4
4	午後1時—3時台	0
5	午後4時—7時台	26.9
6	午後8時以降	0.5

問15 マイク放送は1回当たりどのくらいの時間、放送されることが多いですか。

SA

1	1分以内	33.3	2	1—2分	50.7
3	3—5分	13.7	4	5分以上	2.3

問16 あなたにとってマイク放送はどのくらい役に立ちますか。

SA

1	たいへん役に立つ	13.6
2	多少役に立つ	35.9
3	あまり役に立たない	37.3
4	全く役に立たない	13.2

問17 あなたにとってマイク放送は迷惑ですか。

SA

1	大変めいわくに感じる	3.2
2	多少めくわくに感じる	14.1
3	めいわくに感じない	72.3
4	以前はめいわくに感じたが、もう慣れた	10.5

付問 (問17で1.2. と答えた方のみお答えください)

では具体的にはどのような点が迷惑ですか。MA

N=38

1	音量が大きい	36.8
2	内容が聞き取れない	42.1
3	放送時間帯が早い	31.6
4	内容が不必要	36.8
5	しゃべり方がよくない	7.9
6	放送時間が長い	0
7	その他 (具体的に)	2.6

問18 マイク放送で現在放送している内容で、必要だと思う内容、逆に不必要だと思う内容は何ですか。それぞれの項目ごとにお答え下さい。放送していない項目については「放送せず」とお答え下さい。

	必要	不必要	どちらでもよい	放送せず
1 農家の出荷作業	8.0	32.4	16.4	43.2
2 肥料の配布	7.0	31.9	15.0	46.0
3 学校の行事	44.9	20.4	17.1	17.6
4 告別式等のお知らせ	38.0	14.1	17.4	30.5
5 どぶさらい	43.6	12.8	20.4	23.2
6 ゴミの日	42.5	9.0	16.5	32.1
7 投票のよびかけ	47.2	14.5	24.8	13.6
8 祭関係	67.0	9.0	21.2	2.8
9 災害関係	74.8	3.3	6.5	15.4
10 迷子	68.4	7.4	12.1	12.1
11 Aコープの休日	4.6	27.2	18.9	49.3
12 土地改良区のお知らせ	16.7	31.5	23.6	28.2
13 その他 ()	22.0	10.2	16.9	50.8

問19 あなたは将来マイク放送はどうあるべきだと思いますか。あてはまるもののいくつでもお答え下さい。

1 今のまま続けるべき	49.3
2 放送のやり方を変えるべき	24.5
3 ボリューム調整のできる各家庭の個別受信機で代替するべき	15.2
4 CATV で代替すべき	6.0
5 地域の放送は全く廃止すべき	3.9
6 その他 ()	5.7

問20 あなたは現在どの政党を支持していますか

SA

1 自民党 30.2	2 新進党 8.1	3 社会党 5.5
4 共産党 0.7	5 新党さきがけ 0.4	6 公明 2.2
7 その他の政党 () 0.8	8 支持政党なし 52.1	

付問1 (問20で支持政党なし, NA, DK の人に) しいていえば, どの政党が好きですか。

SA

1 自民党 12.4	2 新進党 6.6	3 社会党 8.8
4 共産党 2.2	5 新党さきがけ 5.8	6 公明 0
7 その他の政党 () 0.7	8 支持政党なし 63.5	

付問2 支持する政党がないのは, どのような理由からでしょうか。

MA N=152

1 政治に関心がないから	15.8
2 政治のことはよくわからないから	11.8
3 自分の意見や希望にあった政党がないから	18.4
4 特定の政党を支持しても政治は変わりそうにもないから	51.3

付問3 あなたは以前は政党を支持していたことがありましたか。

SA

N=138

1 自民党を支持していた	18.8
2 新進党を支持していた	0.7
3 社会党を支持していた	16.7
4 共産党を支持していた	0
5 新党さきがけを支持していた	0
6 公明党を支持していた	0
7 民社党を支持していた	1.4
8 その他の政党 () を支持していた	0
9 以前からどの政党も支持したことはない	62.3

問21 あなたの嫌いな政党をひとつだけあげてください。

1 自民党 6.3	2 新進党 3.3	3 社会党 5.6
4 共産党 20.8	5 新党さきがけ 1.1	6 公明 18.2
7 その他の政党 () 0.4	8 嫌悪政党なし 44.2	

問22 あなたは、今回（1995年7月）の参院選挙で、だれに投票しましたか。

1 塩崎候補 38.8	2 池田候補 13.6	3 中川候補 3.2
4 白票 3.6	5 棄権 40.8	

付問1 （白票・棄権の人に）それはどのような理由からですか。主なものを一つだけお答え下さい。

N=115

1 投票したい候補者がいないから	29.6
2 支持する政党の候補者がいないから	3.5
3 現在の議会政治に不満だから	9.6
4 自分の一票が政治反映するとは思えないから	10.4
5 投票場に行くのが面倒だから	2.6
6 選挙に興味がないから	17.4
7 その他 ()	27.0

問23 あなたは、今回（1995年7月）の参院選挙で、比例区は何党に投票しましたか。

1 自民党 26.3	2 新進党 16.1	3 社会党 9.0
4 共産党 2.0	5 新党さきがけ 2.0	
6 その他の政党 () 2.7	7 白票 3.5	
8 棄権 38.4		

問24 これからの政治がもっと重視すべきだと、あなたがおもう項目を次の中から二つ選んでください。

1	貧しい人や弱い人たちの利益を優先させる	46.7	
2	政府の重要決定に対し人々の意見をもっと述べさせる	30.7	9.4
3	言論の自由を守る	3.3	5.1
4	生活環境や生活の質を向上させる	14.6	49.9
5	法と秩序を守る	2.6	14.8
6	伝統的道德や価値を守る	1.5	5.1
7	高い経済成長を維持する	0.7	15.2
8	強い防衛力を維持する		0.8

問25 あなたは、現在の生活に満足ですか。不満ですか。

SA

1	非常に満足	10.8
2	やや満足	44.2
3	どちらともいえない	27.3
4	やや不満	14.0
5	非常に不満	3.6

問26 あなたは次の点についてどのようにお考えですか。

A 今の世の中は、強いものが得をし、弱いものが損をする仕組みになっている。
SA

1	はい 63.7	2	どちらでもない 30.6	3	いいえ 5.7
---	---------	---	--------------	---	---------

B 政治や社会の動きを知る上で、新聞やテレビはあまり信頼できない。

1	はい 11.1	2	どちらでもない 39.1	3	いいえ 49.8
---	---------	---	--------------	---	----------

C 今の世の中では、才能があっても努力しても、学歴やお金がなければだめだ。

1 はい 38.3 2 どちらでもない 35.5 3 いいえ 26.2

D 今の世の中では、あまりにもいろいろなことが伝えられるので、信頼できるものをみわけるのはむずかしい。

1 はい 69.1 2 どちらでもない 18.8 3 いいえ 12.1

E 今の世の中では、人々は自分のことばかり考え、人のことにはまったく無関心だ。

1 はい 42.6 2 どちらでもない 43.3 3 いいえ 14.2

問27 あなたは次の点についてどのようにお考えですか。

A 国民全体の幸福よりも、自分の利益のことをまず考える政治家が多い。

SA

1 はい 83.3 2 どちらでもない 15.3 3 いいえ 1.4

B 今の世の中は、権力を持った少数の人々によって動かされており、我々の声を政治に反映させることはむずかしい。

1 はい 79.7 2 どちらでもない 17.4 3 いいえ 2.8

C 実行できそうもない公約を平気でいったり、選挙のときしか有権者のことを考えない政治家が多い。

1 はい 82.9 2 どちらでもない 15.3 3 いいえ 1.8

D 選挙で我々が投ずる一票は、何ととっても、国の政治を動かすもつとも大きな力である。

1 はい 48.9 2 どちらでもない 33.2 3 いいえ 17.9

E 世の中のしくみは複雑でわかりにくい、みんなが積極的に意見を述べあってゆけば、やがては住みよい世の中になるだろう。

1	はい 54.8	2	どちらでもない 33.1	3	いいえ 12.1
---	---------	---	--------------	---	----------

問28 次の1～6の中で、あなたが日頃不満にお感じになっていることはどれでしょうか。不満に感じていることがあれば、いくつでもおこたえください。

MA

- | | | |
|---|-------------------------------|------|
| 1 | 新しく人と知り合いになる機会が少ない | 21.6 |
| 2 | 幅広い知識や豊富な経験を持つ人とつき合う機会が少ない | 25.9 |
| 3 | ここではいつもおたがいに観察しあっているようでわずらわしい | 16.0 |
| 4 | いま住んでいるところは全体に「若さと活気」にかけている | 20.9 |
| 5 | 夜、仲間が気軽に集まってさわげる場所が少ない | 18.8 |
| 6 | 家族で外食するための適当な場所がない | 5.3 |

問29 次の意見について、あなたは賛成ですか、反対ですか。 賛成 反対

- | | |
|------------------------------------|------|
| 1. 忘年会や同窓会のようなつき合いは出席しなければならない | 55.8 |
| 2. 東京・大阪など大都会で生活してみたい | 12.3 |
| 3. 地元の神社や寺に寄付するのは、ときにはしかたない | 81.7 |
| 4. 生まれ育ったところで生活していければ幸せだ | 71.6 |
| 5. どちらかという、おしゃれや流行には関心を持っている | 55.8 |
| 6. 多少不便でも自然に恵まれた生活のほうが好ましい | 81.3 |
| 7. 男が外で働き、女は家を守る、のが望ましい家庭の姿だ | 38.8 |
| 8. ささいなことで親と対立した場合でも、自分の考えはまげたくない | 42.4 |
| 9. 「長いものにはまかれろ」という諺は地域生活でもあてはまると思う | |

(最後にあなたご自身についておだずねします)

F 1 性別

1 男40.1	2 女59.9
---------	---------

F 2 あなたの年齢

1	20—29	17.4
2	30—39	23.8
3	40—49	26.2
4	50—59	18.4
5	60—69	8.9
6	70—	5.3

F 3 あなたの最終学歴は何ですか。

1	小学校 (旧制尋常小学校も含む)	2.2
2	中学校 (旧制高等小学校)	9.7
3	高等学校 (旧制中学校)	45.8
4	専門学校 (新制高等学校卒業後に入学したもの)	13.7
5	短大・高専 (旧制高等学校)	11.2
6	大学 (大学院)	16.6
7	その他 ()	0.7

F 4 あなたの職業は何ですか

1	事務的職業	10.4
2	販売的職業	7.2
3	熟練・労務的職業	10.0
4	専門的職業	21.1
5	管理的職業	5.0
6	農林水産漁業	2.2
7	専業主婦	20.1
8	学生	1.8
9	パート・アルバイト	14.3
10	無職	7.9

F 5 では世帯主のかたの職業は何ですか

1	事務的職業	14.4
2	販売的職業	14.8
3	熟練・労務的職業	19.6
4	専門的職業	27.7
5	管理的職業	11.8
6	農林水産漁業	4.1
7	主婦	0
8	学生	0
9	無職	7.7

F 6 あなたが子供時代（小学校卒業まで）に最も長く住んでいたのはどこですか。 SA

1	現住所の町内	12.7
2	松山市内	37.0
3	郡部	18.1
4	地方都市（松山以外）	24.6
5	札幌・首都圏・名古屋・京阪神・福岡等の大都市	4.3
6	その他（ ）	3.3

F 7 あなたは普段の平日の昼間、家にいますか。 SA

1	家にいることが多い	35.5
2	たまに家にいる	16.0
3	滅多に家にいない	16.0
4	全く家にいない	32.6

F 8 仮に現在の日本の社会を、次の6つの層に分けるとすれば、あなた自身は、どれに入るとお考えですか。 SA

1	上の上 0	2	上の下 4.0	3	中の上 43.1
4	中の下 45.3	5	下の上 6.6	6	下の下 1.1

F 9 定期購読している新聞をお教えてください。

MA

1 朝日新聞 15.0	2 読売新聞 17.9	3 毎日新聞 6.6
4 日本経済新聞 3.3	5 産経新聞 0	
6 愛媛新聞 55.5	7 その他の新聞 ()	1.8

F10 お宅の収入のある方全員の、この1年間の収入は全部でいくらになりますか。ボーナスも含めて、税込みでお答えください。

SA

1 100万円未満	0.8
2 100～200万円未満	1.2
3 200～300万円未満	8.9
4 300～400万円未満	8.1
5 400～600万円未満	25.1
6 600～800万円未満	14.3
7 800～1000万円未満	12.0
8 1000～1200万円未満	5.4
9 1200～1500万円未満	1.2
10 1500～2000万円未満	2.3
11 2000万円以上	1.2
12 わからない	19.7

これでおしまいです。ご協力どうもありがとうございました。

資料・自由解答

(括弧内は、整理番号・性別・年代・職業・世帯主の職業)

問2

持ち家兼アパート (309・女・40代・パート・販売)

問5

子供会 (011・女・30代・事務)
 冠婚葬祭 (064・女・40代・専業主婦・専門)
 別の地区の祭り (165・男・30代・専門)
 子供会の寄付 (180・男・70以上・無職)
 公民館活動、子供会 (283・女・40代・事務・販売)
 子ども会 (316・女・30代・パート・専門)
 改良区の会 (365・男・50代・農林水産漁業)
 懇親会 (376・女・30代・専業主婦・専門)

問6

婦人会 (003・女・50代・専業主婦・管理)
 小組合 (011・女・30代・事務)
 子供会役員 (062・女・40代・専門)
 老人会の役員 (183・女・70以上・無職)
 老人会の地区役員 (186・男・無職・70以上)
 子供会役員 (226・女・30代・パート・事務)
 子供会 (235・男・40代・管理)
 こども会(役員) (240・女・40代・パート・管理)
 子供会役員(副会長) 公民館役員(組長・婦人部長)
 (283・女・40代・事務・販売)
 公民館活動 (364・男・50代・専門)

改良区の集まりの役員	(365・男・50代・農林水産漁業)
学校PTA役員	(367・女・70以上・無職・タクシー)
婦人会の役員	(370・女・70以上・無職・農林水産)
子供会の役員	(375・女・40代・パート・販売)
班長	(376・女・30代・専業主婦・専門)
子供会・班長	(377・女・40代・事務・管理)

問 8

広報の当番，新しい人に回らない。	(011・女・30代・事務)
自分中心的考えの者が多い。	(019・女・50代・パート・熟練労務)
全員参加するべき。	(020・男・70以上・無職)
よそから来ている者にとって，地元とのつながりが薄い。	

(026・男・40代・熟練労務)

町内会費の使用方法が不明である。	(036・女・60代・専業主婦・無職)
活発でない。毎年同じ。	(038・女・40代・パート・専門)
自治会の要望が，即，通りにくい	(041・男・60代・画家)

町内会の放送で，農家の方へなどは回覧板で回したほうがよいと思う。朝早く放送しているのでうるさい毎日です。

(042・女・40代・NA・専門)

掃除の日があり，参加できなければ2,000円役員の人が取りに来ますが，日曜日の日が多く参加できない方が多いため，この件に関して，不満です。

(046・女・40代・事務・熟練)

私方は賃貸マンションです。ゴミ収拾日後に係の人が週2回清掃しますが，個人個人できれいにする人，しない人がいますので，町会長等役員に話したいときがある。各戸，毎週持ち回り清掃です。

(050・女・30代・熟練・専門)

時間的余裕があればしてもよいが（定年にでもなれば）今は妻が町内会も子供会（去年も）も活動している。

(053・男・40代・専門)

地元の人が有利のような気がします。 (055・男・50代・販売)

新しく住民になった世帯の参加，出席が低調。

(062・女・40代・専門)

新，旧住民の考え方の違いが時々問題になる。

(064・女・40代・専業主婦・専門)

会費は，何に使っているか？

(080・女・30代・専業主婦・専門)

昔からこの土地にすんでいる人は，何世代もの歴史があるので，付き合いも深い，社宅に住んでいる人たちにとっては，「ここにずっと住む人でないから」と軽く見られがち。なのに，排水口清掃などの時は，「ここまではきちんとしてもらわんとこまる！」と一方的に押しつけられ，嫌といえず，従うような場面もあった。立場的に弱者のような気がする。

(082・女・20代・パート・専門)

町内会の範囲が広い

(086・男・70以上・専門)

この団地の場合は1年ごとに役が変わるので，年度はじめと年度末はちょっと戸惑います。

(124・女・40代・専業主婦・熟練)

町内会の形が形式的になっている。もっと地域密着すべきだ。

(146・男・20代・学生・専門)

親身でない。

(149・男・60代・無職)

昔からの人とだけの付き合いしかない。(155・男・50代・事務)

提灯行列における，子供に対するお菓子の配分方法。

(180・男・70以上・無職)

活気がない。

(188・男・60代・無職)

昔からの土地なので，後から入ってきたものに地域の方針・既存のルールを押しつける傾向がある。

(190・男・40代・事務)

町内放送が朝早くからある点。

(196・女・30代・専門)

町内会など，開催する日，時間等など，連絡が伝わらない。

参加者が少ない。統一できていない。(220・女・20代・専門・熟練)

全体が参加できない（参加しようという意識がない）

（228・男・30代・販売）

昔から住んでいる人が多い→新しい住民にも参加してほしい（考え方が古く
なってしまう）

（229・女・50代・販売）

運動会の回数が多し。

（231・男・50代・事務）

行事が多すぎる点がある。

（235・男・40代・管理）

古くから住んでいる人と新しくうつってきた人の交流があまりない。（一般の住
民）

（237・男・60代・無職）

ゴミの場所・道路の拡張・ガードレール

（240・女・40代・専業主婦・管理）

おしつけ合いをしている。

（241・女・30代・専業主婦・印刷営）

町内会費の使い方・使った先を教えてほしい。

（257・女・20代・専業主婦・専門）

町民全員が参加できるようにしてほしい。

（260・男・50代・専門）

自己中心が多い。昔の考えが主流。

（283・女・40代・事務・販売）

他の町のマイク放送がはっきり聞こえるのに、自分の所属している町の放送は
ほとんど聞こえない。

（300・女・40代・無職・事務）

地域の行事に付き合わなければならないと思われてしまう。地域の人との間に
違和感を感じる。

（301・男・30代・事務）

役員だけ

（308・女・40代・販売）

役員になった人とその周りの人たちがばかりが、行事に参加するようになってし
まうので、もっと公平にしてほしい。

（310・女・20代・販売・熟練）

役員を決めるときに地元の人にかたよってしまう。

（311・女・40代・専業主婦・販売）

町費が高い

（317・女・30代・パート・事務）

祭りに女の子が参加できない。

（331・女・40代・専業主婦・専門）

地域の方みんなにあり方、行事を理解してもらうのが難しい。

- (334・女・30代・専業主婦・専門)
 活動の内容がわからない。 (341・女・30代・専業主婦・専門)
 同じ人が同じ役員をすることが多い。 (343・女・30代・パート・熟練)
 昔からの住民（農家）と新しい住民の間に隔たりがある。
 (344・女・50代・パート・農林水産)
 行事ごとの宴会目的の活動。毎年ワンパターン。向上がない
 (349・女・30代・専門・事務)
 新興住宅民がなじみにくい、昔からの住民の意見が強すぎる。
 (362・男・40代・専門・15～20)
 活動内容がよくわからない。興味がもてない。役員などが一部にかたよっている。無関心が多い。
 (369・女・30代・事務)
 班長・組長などが順番に回ってくる仕組みになっているので、強制的に少し感じる。地区の行事に参加する人が決まってきたので、住民の交流という意味がないのでは。
 (376・女・30代・専業主婦・専門)
 もともと住んでいる方と外部から移り住んだ方とで少し意識が違う。もともと住んでいる方は、古いしきたりなどを重視しているので、外部の方が新しい意見をだしても反発されてしまう。少しは新しい考え方に耳を傾けてもいいのでは……？
 (377・女・40代・事務・15～20)
 町内会費の使い道がはっきりしない。 (382・男・30代・事務)
 役員の選出 (384・女・50代・パート・熟練)

問10

地区で、催し、行事があるときは、各戸に連絡してくれる。

- (064・女・40代・専業主婦・専門)
 市の広報 (107・男・30代・管理)
 新聞（地域欄） (228・男・30代・販売)
 役員が訪問 (378・男・50代・販売)

役員が各家庭にまわってくる (380・女・30代・専業主婦・熟練)

問17

丁寧すぎる。もっと簡潔に。 (003・女・50代・専業主婦・管理)

内容が自分と関係ない。 (243・女・40代・専門・管理)

地元的で限られた内容が多い。 (301・男・30代・事務)

前もって知っていることを放送する。 (341・女・30代・専業主婦・熟練)

問18

町内の運動会・不必要 (207・女・20代・事務・専門)

町内会の運動会・必要 (211・女・20代・事務・管理)

子供会・必要 (245・男・40代・専門)

公民館の行事・不必要 (330・女・50代・学生・専門)

迷子犬・落とし物・必要 (376・女・30代・専業主婦・専門)

問19

災害時以外不要。 (020・男・70以上・無職)

各家庭にはつきり聞こえるように放送してください。

(055・男・50代・販売)

よく聞こえるように改良。 (062・女・40代・専門)

聞こえる様にしてほしい。 (125・女・30代・専業主婦・熟練)

全家庭に関することだけ放送すべき。 (196・女・30代・専門)

マイク位置が悪いので、明瞭に聞き取れるところに新設してほしい。

(209・女・60代・無職・事務)

必要最小限（1カ月に1回） (239・女・30代・専業主婦・販売)

器具の改良，他地域のものがよくきこえるので。

(258・女・50代・専業主婦・事務)

とにかく聞こえるようにしてほしい。 (378・男・50代・販売)

放送をやめたほうがよい (緊急以外は) (397・男・50代・専門)

問20—1

民社党 (364・男・50代・専門・反公明)

問21

全部 (085・男・30代・専門)

問22—1

家の都合。 (006・女・40代・パート・事務)

仕事の為。 (018・男・30代・販売)

時間がなかった。 (030・女・20代・学生・販売)

子供が病気だったから。 (102・女・30代・専業主婦・販売)

自分の一票で政治が左右されるのが怖い。

(108・女・30代・専業主婦・事務)

用があり当日留守だったので。 (130・女・30代・パート・専門)

仕事 (137・女・60代・専門・販売)

急用が出来て、急にいけなくなった。 (141・女・50代・専門主婦・事務)

用事のため (162・男・20代・アルバイト・旅館)

留守にしていた。 (199・女・20代・専業主婦・事務)

出産間近のため (211・女・20代・事務・管理)

仕事だったので、行くことが出来なかった。

(220・女・20代・専門・熟練)

物事の解決策人にはよらないと思うから。

(241・女・30代・専業主婦・無党派)

当選者がわかっていたから

(260・男・50代・専門・自民支持)

市民に反映されない	(278・男・30代・無職)
仕事	(299・女・20代・無職・熟練)
病気だった，動けなかった。	(300・女・40代・無職・事務)
仕事	(301・男・30代・事務)
スケジュール的に無理	(302・女・60代・専門・無職)
行く気がしない	(306・男・50代・熟練)
仕事	(308・女・40代・販売)
家にいないから	(324・男・30代・販売)
家にいなかった，外出	(341・女・30代・専業主婦・熟練)
旅行のため	(367・女・70以上・無職・タクシー)
病気のため	(370・女・70以上・無職・農林水産)
諸用のため	(373・女・30代・専業主婦・熟練)
病気の為	(378・男・50代・販売)
病気の為	(391・女・40代・専業主婦・熟練)
衆議院だけでよい。参議院は無意味。	(397・男・50代・専門・自民支持)

問23

自由クラブ	(038・女・40代・パート・専門)
スポーツ平和党	(150・男・30代・熟練)
平成維新の会	(155・男・30代・事務)
農民連合	(284・女・50代・専業主婦・管理)
スポーツ平和党	(316・女・30代・パート・専門)

F 3

職業訓練学校	(385・男・50代・熟練)
--------	----------------

F 9

聖教新聞	(046・女・40代・事務・熟練)
聖教新聞	(116・女・50代・パート・熟練)
聖教新聞	(122・女・70以上・管理)
デイリースポーツ	(124・女・40代・専業主婦・熟練)
デイリー・農業新聞	(212・男・20代・販売・農林水産漁業)
日刊自動車新聞	(236・女・40代・販売)
日刊工業新聞	
日経流通	
農経しんぼ	
燃料油脂新聞	(250・男・50代・管理)
デイリースポーツ	(273・男・40代・管理)
聖教新聞	(280・女・40代・パート・販売)
北海道新聞	(337・男・30代・専門)
聖教新聞	(357・女・30代・専業主婦・販売)
聖教新聞	(367・女・70以上・無職・タクシー)